

私が「ヴィジュアル系」だった頃。



[私が「ヴィジュアル系」だった頃。_ダウンロード1](#)

著者:[日]市川 哲史

出版者:竹書房

出版时间:2005-7

装帧:単行本

isbn:9784812421918

帰ってきた音楽評論家、市川哲史がおくる会心の力作！ YOSHIKI、SUGIZO、キリト、大槻ケンヂとヴィジュアル系の時代を振り返る対談集。カリスマたちが肉声で語る驚愕の真実から、V系の時代が今明らかに！ 大槻ケンヂのV系トークも炸裂！ また、ゲストに市川氏とともにV系ライターとして活躍中の大島暁美さんを迎え、取材側の苦悩？ など爆笑秘話も収録。2度とありえない奇跡の共演！

作者介绍:

市川 哲史

音楽評論家。1961年岡山出身。予備校生時代の80年より、執筆開始。『ロッキングオン』『音楽と人』を経て、現在はマイペースの音楽素浪人生活中(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

目録:【目次】

★第一章 大槻ケンヂと、「V系」って何だったのか考えてみた。

大槻ケンヂが始めたんだよ、V系ってものを！(爆失笑)

なぜか大槻が語る「V系メイクの秘密」

ヴィジュアル・ショックを前面に出した大阪系の人たち

日本固有の文化を生んだというのは素晴らしいんじゃないかな

いきなり入ってきた「タテ社会」。あれにはびっくりしたよね

日本で初めてロックが「芸能」として成立した瞬間

メジャーとインディーズがボーダレスになった時代

冒された少女たちの捻じ曲がった「夢とロマン」

お耽美系にお水系、注目される<色恋営業>

V系を構造的に解明する糸口……Xは光、筋少は影（失笑）

「恥ずかしい過去」と「甘酸っぱい過去」

ネガティブな世界観とポジティブな一体感

★第二章 YOSHIKIと、「Xの時代」を思い出してみた。

知らないから1つずつやってたら、途中で退けなくなっちゃった

このままじゃマズい。俺はレコード会社になっちゃうぞ

だって別にね、儲けようなんて思ってなかった

今年からまたドラムを叩こうと思ってる

積み上げた積み木を途中で蹴飛ばし、また積み上げて……

<無謀>と書いて、<YOSHIKI>と読む！！

Xの海外進出が結局、未遂に終わった理由

掟破りのビジネスマン、YOSHIKI

マーチャンダイジング A-GO-GO

暗闇の中を10何年間彷徨っていた感じ

きっとタイムカプセルに入ってたんだ、「スタジオ」という名の

★第三章 SUGIZOと、<LUNA SEA世代>を振り返ってみた。

これだと思ったのが<麗しき暗黒方向>だったんです

目標は俺たちを馬鹿にしていた奴を見返すことだった

90年に入って「美しき破壊と混沌」がテーマになった

居心地の好すぎるところに埋没するのは嫌だ！

あの頃のがむしゃらさは間違っていない

真摯だったけれど、沢山の勘違いも生まれた時代

もっとわかり合える部分があったら、バケモノになっていた

加速度的なセールスの上昇と減速し始めた原動力

hideさんの気持ちでライブを続けた1年

今でも<LUNA SEAだった自分>の亡霊と闘っている

偉大なる大失敗バンド？ その再結成の可能性

スレイヴたちが築き上げてくれた巨大なピラミッド

父親になって世界観が変わってきた

だって俺は「音楽のしもべ」、まず音楽ありきですよ

★第四章 キリトと、<PIERROT魂>を再確認してみた。

「呼ばれ方って何でもいいんだな」って思ってますよ

会場が一瞬凍りついた辛らつなメッセージ

B U C K - T I C Kの反則具合が、俺のツボにハマった

常識や倫理ではなく、恰好いいとを感じるかどうか

「押忍！」が飛び交う中で1人、ウォークマン聴いてた

発信元は、絶対オリジナルでなきゃいけない

「P I E R R O Tをぶっ殺す！」とhideから呼び出されて

抑えきれない、「あえて斜めに逸れたい衝動」

日本のV系を馬鹿にする洋楽ファン。ちゃんちゃらおかしい

レジスタンスのヒーローで終わりたいくない

先人たちがどうであろうと、俺は俺だから

★第五章 私たちが＜V系ライター＞だった頃。
＜V系ライター＞は世界一たくましい
＜V系の生き字引＞かく語りき
＜ALCOHOLIC VIOLENCE CRIME OF VISUAL SHOCK＞
hideで始まり、hideで終わった＜V系の時代＞
．．．．．(收起)

[私が「ヴィジュアル系」だった頃。_ダウンロード1](#)

标签

评论

白石一文

评论

[私が「ヴィジュアル系」だった頃。_ダウンロード1](#)

书评

[私が「ヴィジュアル系」だった頃。_ダウンロード1](#)